

いのちの言の葉

「いのちの授業」 日野原重明先生

平成19年度 滑川市寺家小学校 4年

「いのち」ってどこにある？

・・・心臓？

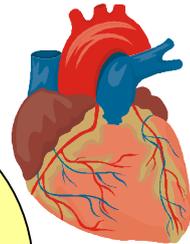
心臓は、「いのち」を守るポンプなんだよ。
ほら、酸素や血液が流れる音が聞こえるよ。

「いのち」ってどこにある？

「いのち」は目にみえない・・・

大切なものは目に見えないものが多いね。
「いのち」「時間」・・・

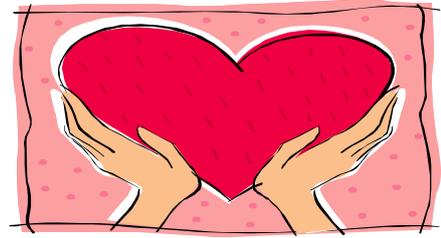
大切な「いのち」や「時間」、自分のためだけ
ではなく人のために使えたらいいね。



私が、一番おどろいたことは、心臓は、命ではなく、さんそや血えきを体におくるポンプで、いれものだということです。

命はあるけど見えない、見えないけどある。そのことが分かったとき私は、「なるほどなあ。」と思いました。

心そうの大きさは、手をグーにした大きさだということにビックリしました。もっと大きいと思っていました。



私は、命は心臓だと思っていました。でも、心臓はポンプで、命は目に見えないものだと分かりました。大事なものには、目に見えないものが多いと教えてもらいました。びっくりすることをたくさん教わりました。

体に必要なものは、目に見えないものが多いことに気がきました。そう言われてみれば、空気も目には見えないなあ、と気が付きました。

大切なものは、見えないものが多い。たしかに、空気・思いやり・・・いろいろあります。



自分の時間は、誰かのためにも使えるということを知ってもらいました。

その話を聞いて、しょうらいは、ボランティアや、老人ホームで働きたいと思いました。だれかの役に立ちたいと思ったからです。

先生は、九十五才だったから、ほくも九十五才をこえても、つくえに足をおけるようにして、百才以上の年でもできたらやりたいです。

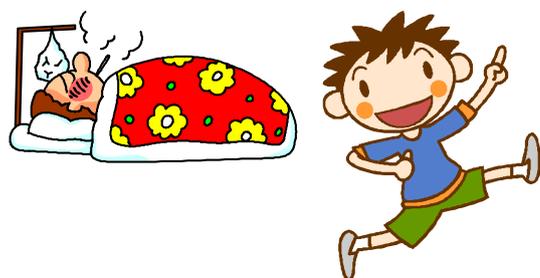
ほくがおとなになって、仕事が終わったらボランティアをやってみんなのために働きたいです。



「しゃぼん玉」の歌の意味を知って、生まれてすぐなくなった子がいると聞いて、私たちは、生きているから、一生けんめい生きようと思いました。

しゃぼん玉の歌も歌いました。これを作った人は、しゃぼん玉が大好きで作った人かと思っていたけど、その人の子どもは、生まれてすぐ死んでしまって、しゃぼん玉みただから作ったと分かりました。

そんなすごい意味があると思っていなかったのに、ちょっと悲しい歌なんだと思いました。



ぼくたちは元気に生きているけど、病気で苦しんでいる人たちや、死んでいく人たちがたくさんいるんだなあ。と思います。

いのちのじゅぎょうで、いのちが大切なことや、心そうのことを習って、すごく勉強になりました。長生きする人は、すごいなあと思います。



「ひのはら先生」は、なんと、九十五才！！しかもげんえきのお医者さん！すごく長生きで、元気！すごいなあ。私は百三十才ぐらいまで元気に生きていたいな。